

大会計測写真日誌

リビエラカップ 2010年度第28回東日本OP級ヨット選手権大会

大会計測員
荒川 渡

2006年よりリビエラカップが始まり、逗子マリーナで4年続いた後、今年は葉山新港で開催されました。

今回特に良かったと思うところは、

- ① 新たに指定管理者となったリビエラリゾート様とヨットハウスの施設面、それにハーバーマスターに大庭さんが就任されて、ヨット界を知り尽くされた長年の蓄積をマネジメントに存分に反映していました。過去、2002年東日本と、2004年のIODAアジア選手権を当地で開催しましたが、経営は第3セクターで我々に対してお役人的な対応ぶりでした。しかし今は民間企業なので丁寧さは今昔の感があります。
- ② レース委員長を協会理事の矢野さんが務めたこと、実行委員会をすべて関東の理事が積極的に行ったこと。また、レース委員はほとんどを参加クラブからの協力により組織し、プロテスト委員以外は各クラブなどの協会員による自らの手作り大会を達成したと言えます。

8月19日 大会登録・計測

今回初めて参加93艇の全艇、計測予約をしました。NOR 6.(1) のJSAF/JODA会員証提示では、2009年JSAF会員証を持ってきたり、某団体系のクラブでは、今年から、そこでも登録手続きをする事で、そちらに申し込んだクラブは全員カードが間に合わなくて混乱しましたが、翌日に届くということで、誓約書で処理しました。

トラブルとしては ①忘れた会員カードやレジストブックをFAXしてもらい、コピーで提出。②スプリットのシリアルNo.が読めなくて基本計測による証明書の再発行。③レジストブックの盗難紛失で、イギリスのIODAからレジストブックを再発行してもらい、ハルの再計測については再計測免除なのですが、重量計測だけは公式計測員が公式な計測を行い証明書に記入しなければならないケースがあつたので、この機会を充てました。



一つびっくりしたのは、私がうかつにも2010年度クラスルールブックを忘れてきてしまい、困っていたところ、誰かが伝えたのか、大庭さんがJODA計測HPからプリントしてすぐに持ってきてくれました。この間わずか十数分の出来事、対応の素早さに感心しました。従来艇は3艇あり、1艇がフル計測でしたが、2艇は一部証明書を用意しており、開会式までには余裕をもって計測タイムを終了しました。



開会式

国見副会長のあいさつ



8月20日 大会フォーマット

IODAでは、参加艇数が多い場合に、DIV分けでスタートラインのコントロールをよりの確にしているの、日本でも、全日本では1996年頃からワールド方式を踏襲して4DIVの総当たり組み合わせをしています。ただし、ワールドでは2週間の日程で一日2レースのペースで(日程が遅れた場合は1日3レースまで行い日程を取り戻すことができる。)ゆとりがあるのに対し、全日本では実質3日間なので、12レースを消化するためには、1日4レースが必要です。

4DIV制では、全DIV が完了しないと、次の組み合わせ

ができない欠点を持ちます。ゼネリコや風振れで後発スタートが遅れても、先発フィニッシュ艇は、延々と待たされます。今の東日本スタイルでは、実質2日のレース時間に対し全8レースは、やはり1日4レースなのですが、2日目の朝に風待ちがあり、軽風で900mのレグを取っても時間余裕があり、最終日には12:09で全レース完了したのは、この方式の長所なので、そろそろJODA全日本も4DIV制を見直して、4日間の日程でも余裕を持ってレース消化ができる2DIV制を検討する時期ではないかと思います。

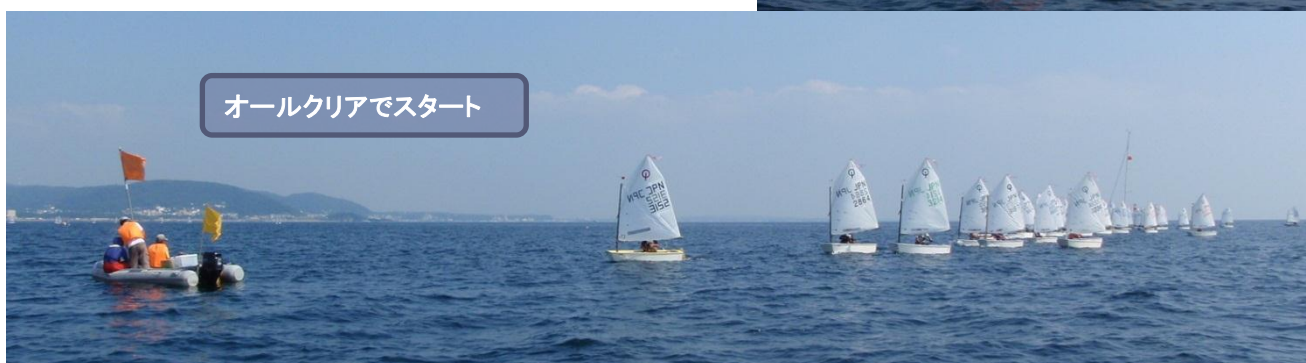
8月20日 レースが始まる

昨日までは毎日夏とは思えない風が吹いていたのに、本番では3m/sの軽風(60° ~90°)。矢野レース委員長の的確な指示は、トランシーバーから次々に電波で飛び、運営はそのリズムに乗って行動します。2レース消化、トップ艇は、第1レース 高宮豪太君と、菅野翔君。第2レースは樋口藍君と、榊原隆太郎君でした。

第2レースのスタート予告信号が揚がる



オールクリアでスタート



8月20日 海上計測

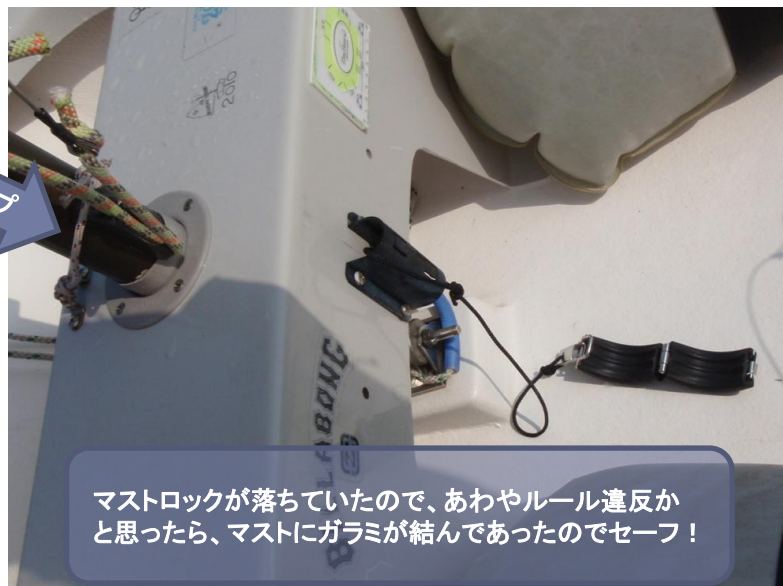
いつも海上計測に使用する艇と言えば、大会が調達した中でも、最も能力の低いボートが定番でしたが、今回は 公式計測員の深沢さん(湘南ジュニア)にかなり優秀な艇を提供していただき、レース委員会レスキューと兼務でしたが、もし海が荒れたとしても十分に任務を遂行できた事でしょう。計測チームは、深沢氏と、公式計測員候補生であり、地元 葉山町セーリング協会の国見氏と私の3名で、①計測されるOP艇



の誘導員と、②艇の検査員、
③記録員の3つの役割を、
全員が交代しながら分担
しました。

スタート予告前は、海上をパトロールして、
待機しているレース艇の ブラックバンドや
ガラミのチェック、必要ならば艇に近づい
て警告します。 この日は2レースで
各DIVにつき3艇ずつ 計12艇チェックし
て、違反艇はなしでしたが、右の写真のよ
うな例もありました。 念には念を入れてロ
ックですか。

ガラミロープ



8月21日 大会2日目

朝、風待ちをした後、201° から なんと
なく吹いてきたので4レースを実施、
午前中は3~4m/sでしたが、午後からは
風が吹いてきそうな気配でレスキュー体制
は「2」の警戒態勢に入りましたが、波は高
くなるものの結局風は平均5.5m/sでした。
岸祐花さん、と高宮豪太君は素晴らしい
走りを見せて、この日の第3R~第6R は
すべて、この2人がトップで、捨てレース
を1つ含む6レース集計では、高宮君5点
岸さん6点、となり両者がダントツ、勝敗は
最終日に決まります。

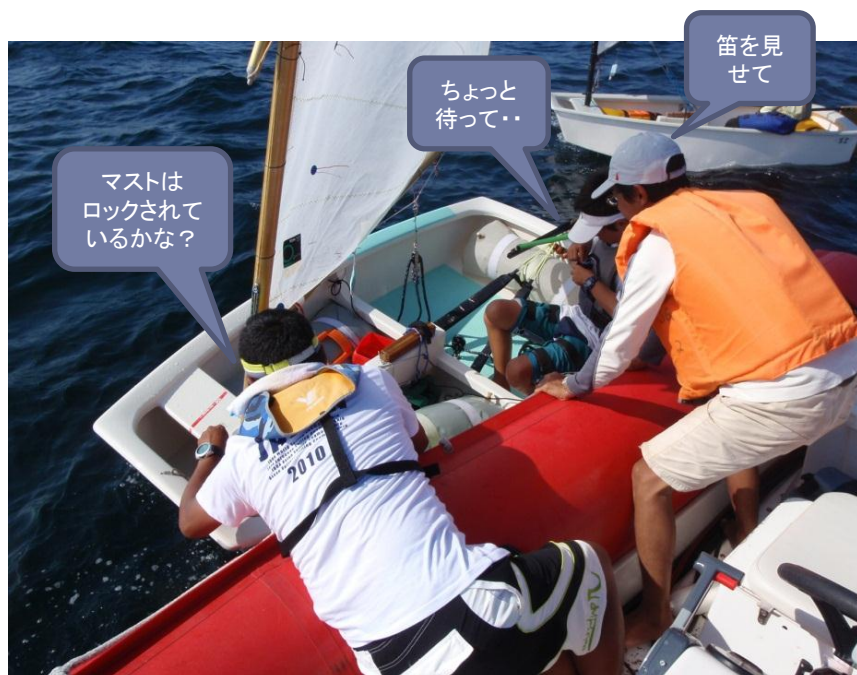
8月21日 海上計測

OP以外の国内の他のクラスでは 未だに一般
化していない海上計測ですが、海外のメジャー
な大会などではかなり以前から一般化しており、
どの艇を計測するかを Jury が決める手法も、
OPクラスだけのものではなく、普及しています。
ワールドではトップ15艇中の5艇をそのレース番
号に対しての順位を5つ書いた紙を Jury がレ
ース前に計測員に渡します。これは利害関係に
よる悪影響を防止する最善の策なのです。
日本ではトップ10艇のうちの3艇を選びます。





あらかじめ Jury に決められた順位の
3艇が10項目の検査を受ける。



マストは
ロックされて
いるかな？

ちょっと
待って...

笛を見
せて

8月22日 全てのレースが終了.. あとがき

最終レース終了の時刻は12:09で全予定レースを完了、AP/A旗でも、AP/H旗でもなく、信号旗なしでハーバーへ帰港合図するフィニッシュRC艇を見て、92のOP艇の列を見守りながら、計測艇はハーバーへ向がいました。

最終日の高宮君VS岸さんの戦いは、第7Rが高宮3位、岸2位、第8Rは岸1位、高宮4位となり、2つ目のレース得点を捨てると、1位7点 と2位8点で岸さんが1点差で見事な逆転勝利を収めました。

おめでとう！ 2010年東のチャンピオン岸祐花さん。

計測も一つのわき役だけれど、大会を支えたすべてのわき役の力が集成されて、すばらしい主役(チャンピオン)が誕生した葉山沖のOP大会、その成功をお祝いします。



今回、4件の安全規定違反(PFP)と1件のセールの位置(ブラックバンド)違反が検出されました。PFPではパドルが積んでいなかった艇、この艇は笛も持っておらず、2件×5点=10点のペナルティをもらいました。他の1件は、笛をライジャケのポケットに入れていただけでヒモがなかった。最後の1件は、笛もライジャケからのヒモもあったのだが、ただし、それらが結ばれていなかった。

成績がいつも上位の選手は、確率上何度も繰り返し検査されるので、まず大丈夫だが、この検査が初めての選手は、まれに上位を取ると引っかかってしまう。計測員としては、その失意の表情を見なければならないのが一番つらい。

果たして大会前にこの検査について、選手たちに内容を十分にアピールをしたらどうか？との反省。罰則に納得していただけたらどうか？

計測のHPでも公開はしているのだが、特に新人レベルで読む機会はあるのだろうか？とりわけ大会HPで、海上計測について説明していなかったのが残念だったので、次回の東日本では課題としましょう。